

●トヨタ環境委活動助成プログラム。助成決定証授与式に出席 3 日 太田敏之さんの報告書を紹介します(4日の事務局会議に提出されました文書)12月3日に東京の紀尾井町にある紀尾井町ビル 19 階にあるトヨタ倶楽部で今年のトヨタ環境活動助成プログラムの女性決定証授与式に参加してきました。今年の応募は 89 件で、助成決定対象は海外プロジェクト 11 件、国内プロジェクト 9 件、国内小規模プロジェクト 6 件でした。里山の会は国内小規模プロジェクトで 99 万円の助成を受けます。各プロジェクトがそれぞれ 3 分間のプレゼンをしました。

プレゼンの後、懇親会では経団連自然保護協議会の真下さん(岩倉在住。今回の 1 次審査もされたそうです)から話しかけていただき、中聖牛などに興味を持っていただいたこと、そして経団連でもトヨタと同様の助成があることを教えていただきました。また京都から海外プロジェクトで活動されている日本国際民間協力会(実施地インド)の岡田さんや、NPO道普請人(実施地ウガンダ)宮崎さんにも紹介していただきました。その他にはオオイタサンショウウオの武市さん、ラムサールセンターの岩崎さん、裸足醫の林さんなどと名刺交換してきました。

続いてプレゼン文書を紹介します。

木津川は京都府と大阪府の境で、桂川、宇治川と合流して淀川となり、大阪湾に流れ込む河川で、全国的に珍しい砂の多い河川です。川幅はこのあたりで 500m ほどあります。しかし近年では砂の流出による河床低下や、河原の樹林化などが問題となっています。

淀川の下流にはワンドと呼ばれる池が多くあり、淀川のシンボルフィッシュと呼ばれる天然記念物のイタセンパラが大切にされています。イタセンパラは日本固有の大変美しい魚で、淀川水系と木曽川水系と富山平野北西部にしかいません。

このイタセンパラが最後まで自然状態で生息していたのが、木津川にある旧河川跡の池です。私たちの「やましる里山の会」では、この付近で京都大学の防災研究所の呼びかけで数年前から伝統的河川工法である、竹製の蛇籠や木を使った中聖牛と呼ばれる物で、水の流れや、砂の堆積を変えようとしてきています。竹、木、石で作られているので、ゴミにならずに 10 年ほどで自然に還るものです。

また毎年、子どもたちに呼びかけて魚とりのイベントを木津川の数カ所で実施して、たくさんの参加をいただいています。このようなイベントの参加者だけでなく、地域の広く多くの人に呼びかけて、最近では災害やゴミ問題でしか話題にならない河川に親しむきっかけにするべく、木津川におけるイタセンパラの復活をめざします。決して 1 年 2 年ではできるものではありませんが、この助成をきっかけにスタートアップしていきたいのです。

写真はイタセンパラと中聖牛を両側に配置した木津川で、川は右から左に流れており、上の方に 3 つの池が見えます。川のこの場所には昨年設置した 3 基の中聖牛、その左に一昨年に設置の 3 基、そして今年もこの右側に 3 基の中聖牛を設置しました。本川の両側には 2015 年に設置した 6 基の竹蛇籠があるという環境です。

ここで私たちはイタセンパラの復活をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。 太田さんご苦労様でした。

●里山農園イノシシ防護柵補強完了する 29 日実行 里山農園では、毎年 9 月の初旬ことにイノシシに柵を破られてサツマイモなどを数回全滅させられてきました。今年も侵入されました。調べてみますと数カ所防護柵が破られています。対策をとらねばなりません、人手が不足していたので野放しになっていました。夏原グラント 3 年目の事業に対策を予算化してきました。周囲 500m の防護柵 8 か所が柵を壊すかあるいは網の下を掘って侵入したと思われる個所がありました。網の

外の雑草を刈取り、新しい金網を補強しました。一応応急措置が完成しました。里山農園関係者の話では、網の外の雑草を刈り取って網に近づくイノシシの姿が見えるようにすることが、急所だということです。最終手段として侵入防止網の効果を保持することが大切なものだけれど、猪がまる見になる草刈りが良いそうです。要は周囲の草刈りをきちんと行っておくことが大切だということです。

●**木津川希少植物植生調査監理業務のうち除草作業残り 1500 m² 12 か所となる** 除草作業を受注して3年目になりました。39 個所の存在とおおよその特徴などを理解できるようになってきました。夏を過ぎるとそれぞれの植物は勢いをつけて大きく成長しています。セイタカヨシやススキは人の背の高さよりも高くなり茎も太くなりますハンマーモアの性能を超えるものもあります。こうしたところは機械の操作を工夫して作業を続けています。12 月になって刈り取り残しているところは残り 1000 m² 余りになりました。小規模な箇所、二日程度で刈り取れると思います。続いて刈草の収集になります。加茂地域など木津川市域から収集となります。どなたでも簡単な作業なのでお手伝いにお越しください。

●**ヤマトサンショウウオの観察会立命館大学の助教を招いて観察研究会 29 日実施** 先日の乙訓での学習会に参加されていた神松先生に一度京田辺市を訪ね生育池の様子を見ていただきたいとお願いしたところ快くお越しいただけました。この日の午後、深田理事長や太田さん金田さんなど5人が一緒に現地を案内致しました。神松先生のご感想ではなかなか良い環境の生育池である事、想像していたよりも絶滅する心配の恐れはないように見える、との状況判断でした。幼生で水中生活している折には、食物の関係で共食いをすることも考えられるとのお話もありました、来年には生育調査を行って見ようということになりました。

●**年末餅つきと注連縄作り 22 日(日)10 時～** これまでの取組みでは年末の押し詰まった頃に実施した年末餅つきとしめ縄づくりを早めに行うことになりました。例年通りだと思っておられたら時期が早くなりましたのでご注意ください。餅つきの当日や翌日に尾根筋ハイキングコースの年末清掃を行ってきましたが、余裕をもって取り組むことになりましたので、その心づもりをお願いします。注連縄づくりでは新型の物を考えようと工夫しています。ご期待ください。開催場所は現在検討中です。当日受付します。

●**21 日オオムラサキ調査会 冬の昆虫観察 10 時～ 里山農園** 一昨年・昨年今年と強力な台風が本土を襲い、全国各地で大きな被害を発生させました。里山農園付近ではオオムラサキの幼虫調査で以前は最大 40 匹もの発見があり、すごい生息環境の地域と確信してきましたが、蔓延したナラ枯れ病によってコナラやクヌギなど樹液を出していたものが枯れ、台風被害で更に倒れるものが続出して大きく環境が変化しました。生育地の大変化です。昨年の幼虫調査ではオオムラサキの幼虫はたった一匹という結果になりました。夏の観察会では一週間連続して観察しましたが、ものは皆無でした。報道によりますとオオムラサキの生育状況が大変厳しい環境になってきていると伝えています。私たち里山農園付近での調査でも厳しいものとなっています。12 月の幼虫調査はどういう結果となるのでしょうか。興味津々です。エノキが 20 本以上群生する素晴らしい環境での結果が楽しみです。

●**12 日パソコン教室 差し込み印刷講習会 10 時～12 時** 年末の一つの作業である年賀状の作製でご多忙だと思います。里山の会では名簿の整理などにもなり、年賀状のあて名書きにも役立つと言われている差し込み印刷の手法について学習します。10 時から 12 時までの 2 時間一緒に学習してみませんか参加費無料です。ご自分のノートパソコンをご持参ください。ご参加をお待ちしています。

2019 年里山の会 十大ニュース 第 1 次案 しました

- 1 春の七草摘みに多数参加
- 2 木津川希少種植生管理業務受注
- 3 木津川マラソン最終支援となる
- 4 カスミサンショウウオ保護の電気柵設置
- 5 ヤマトサンショウウオ保護の撮影カメラ設置
- 6 オオムラサキ観察 1 週間連続観察実施
- 7 理事長深田三郎さんに再度登壇
- 8 親子花見乗船体験 里山の会単独で実施
- 9 理事長選出に臨時理事会数回開催
- 1 0 決算総会と予算総会の二分割開催
- 1 1 京都府交響プログラム事業申請書交付決定承認
- 1 2 27 本の蛇籠延べ 130 人で完成させる最低人数
- 1 3 竹割機 竹幅精製期の作製に成功
- 1 4 トヨタ自動車環境活動資金交付申請が承認決定される
- 1 5 週刊ニュース 800 号に到達
- 1 6 親子で遊ぼう学ぼうと魚とり 8 回計画 6 回実施
- 1 7 台風 19 号蛇籠通路流出 復旧される 中聖牛
- 1 8 第 3 回目の竹蛇籠製作技術完成域に到達
- 1 9 初開催の竹蛇籠製作中間シンポジウム成功させる
- 2 0 夜の生き物調べ 79 人学習殺到
- 2 1 蛍の夕べ最終夕立の中 25 人鑑賞に参加
- 2 2 里山農園活動最悪体制の中継続
- 2 3 京田辺市民文化祭で ヤマトサンショウウオ保護撮影に人気集中
- 2 4 新レンジャーに中尾氏選出 山田・田中氏アドバイザーへ
- 2 5 竹蛇籠の編み方の教本完成

みなさんからの追加提案待っています

決定は 25 日事務局会議出席者の投票で決定します